

日本文化の支那に及ぼせる影響

(前承)

文學博士 服部 宇之吉

嚴復は一時日本では加藤弘之博士を以て日本第一の哲學者であると云ふけれども、あれは詰まらぬ人だと言つて居る。何故に詰らぬかと段々聞いて見ると、「天則百話」と云ふものを讀んで、あれを以て加藤博士の哲學の究竟と思つたのであつた。そんな風で日本を非常に馬鹿にして、日本の譯語などは見るに足らぬと云ふ風に考へて居つたのが、とうとう天演論では人に分らぬから進化論と云ふ字を使はなければならぬ、物競では分らぬから自然淘汰と云ふ字を使はなければならぬと云ふ迄になつた。そんな風に弘まつたのであります。

法律上の言葉が殆ど日本のが這入つて居ります。日本の法律語には随分解りにくいのがございます。私が明治三十五年に支那に參りました時分には、會社と社會の區別の出來ぬ人が随分あつた。會社も社會も同じに考へた。成程文字から云つたら殆ど同じ様なものである。それから小切手と云ふことを形の小さい切手と云ふ風に考へ、形の大小に依つて區別があると云ふ風に考へて居つた人も有り、いろいろさう云ふおかしい話もあります。兎に角むやみにさう云ふ言葉を使つたので随分まごついた人があつ

た所が、其後岡田朝太郎博士が参りまして支那人が刑法を作る相談相手になつた。其時に支那人がそつくり日本の語を用ゐた。さうして其刑法草案の出来上つた際に中央政府から地方の總督巡撫に廻して意見を徴した。いつもさう云ふ風にやるのです。なか／＼總督巡撫と云ふのは偉いもので、國の重大なる問題に就ては中央政府否朝廷は必ず彼等の意見を徴した上で決定するのです。所が、いろ／＼な意見が出て参りましたが、概括した處を申しますれば、此新刑法草案なるものは實行不可能であると云ふのが多かつた。其理由はと云ふと新熟語が甚だ多い、到底吾々には了解が出来ない。斯う云ふものを如何に人民が了解することが出来やうかと云ふのであります。御尤な譯で、執行者に分らない位では人民に分る筈がない。中には、自分の處には日本に留學した新知識者が居るが、其新知識者にも了解が出来ぬ位であるからいかぬと云ふのもあつた。それ程に新しい言葉が這入つたのであります。又假出獄と云ふ文字を使つた所が、假と云ふ字が支那では一時とか云ふやうな意味ではない。嘘と云ふことである。嘘の出獄とは何であるか、まるで意味を成さぬ、斯う云ふ條理に適はぬことを規定した刑法は斷じて施行すべからざるものであると云ふ反對論も有つた。ちよつと可笑しい話でありますが、兎に角支那人に了解し得ざる程度までに、日本の熟字が這入つた。もう一つ申上げますと、政府で出す公文の上に日本の熟字が多く用ひられ始めた。さうなると非常に便利を得たのは吾々日本人です。文字が見慣れて居るのが多いから都合が好い。之に反して非常に不便を感じたのは各公使館領事館に居る漢文書記官です。今まで

見たことのない新しい文字が澤山公文に載つて来る。是は一字一字に字引を引いて行つても到底意味が分らない。非常に此先生方が困つた。吾々の學んだ支那語が無用になつたと云つて嘆息した。随分日本の公使や領事に此文字は何う云ふ意味であるかと聞きに来る位であつた。さう云ふ風に各方面に日本の熟字が這入つて來た。中には強て日本語を使はないでも宜い處へ矢張り日本語を使つてある。

明治三十八年でございましたが、我邦で支那及朝鮮の留學生取締法と云ふものを作りまして、それが爲めに支那の留學生が非常な反抗を起したことは御承知でございます。つまり朝鮮の如き亡國と堂々たる支那を同一に視て特に斯ふ云う取締規則を作つたのは不都合であると云ふのです。中には随分法文の誤解もあつた様ですが、第一に感情を害したのは支那人と朝鮮人とを同一規則の下に取締るのは不都合だと云ふ點であります。さう云ふ考で熱中して見るから條文に就ても随分笑ふべき誤解をして居つた様であります。それで此取締規則を廢して貰いたいと云ふので取締規則取消運動と云ふことを始めた。堂々と本國へ電報を打つたり或は檄文を飛ばしたりして盛に取消運動をやつた。此事情の爲めに取消とか取締といふ文字が支那人一般に了解される様になりました。今日では公文の上に取締とか取消と云ふ文字が立派に現れて來て居ります。それから又手續と云ふ文字が出て來た。此頃見ますと、賣下とか、賣拂とか、買入とか云ふ如き文字が立派に公文に載つて居ります。さう云ふ風に日本の熟字が益々多く入り込むと云ふ状態でありまして、普通の話の上にも出て參り又公文の上にも出て參り、殆ど日本の熟字が

行はれて居ると云つても宜い位であります。斯うなると文章にも多少の影響がある。支那の文章をまるで一變すると云ふ程ではありませぬが、さう云ふ文字を使ふ人が文章を書くとき多少變はつて来る。現に革命前に地方議會と云ふものが出来て、其地方議會から中央議會に向つて、請願とか、建白とか、或は法文の解釋に就て疑義を質す爲めに電報の往復が盛でありましたが、其電報を見ると殆ど日本文の翻譯であります。從來の支那の公文式とはまるで文章の組立が違つて居る。つまり電報文或は法文に言葉が這入つたばかりでなく、文章まで一變せんとする有様であります。併し其他の方面では其れ程に變はつたことは認められない様であります。さう云ふ風に言葉と云ふものが非常に多く支那に這入つて居ると云ふことが如何程の影響を與へるものであるか、言葉の中にある精神とか感情と云ふものが其れに伴つて支那人の頭腦に浸みて行くか何うか、それは問題でありますが、兎に角言葉だけは廣く行はれて居る、言葉だけで申すと、支那と日本と非常に接近しつゝあると云ふ状態でございます。

そこで主として申し上げます本題はさう云ふ極く詰まらぬことであります、之に就いて少し申上げて見たいと思ふことがございます。先刻申しました様に、支那人が外國のものを研究するのに十分徹底した研究をしないと云ふことは一般であると思ひます。もう少し進みましたら何うか知りませぬが、まだ今日の處では十分に行かないのです。そこで日本と云ふものに就ても支那人がどれ程理解して居るかと言ふことが問題です。留學生は今日では八千人ばかり居ると公使館あたりでは云つて居りますが、一時

盛な時分には一万人以上に上つて居つた。此等の留學生が支那へ歸つてから何をして居るかと思はれると、皆相當の活動をして居るのです。現に司法總長の章宗祥と云ふ人は東京帝國大學法科大學の選科卒業生であります。今來て居ります公使は早稻田大學の卒業生であります。又白耳義に公使となつて行つた人も早稻田大學の卒業生であります。其他大臣、次官、局長などになつて居る人も段段あります。又議員になつた者も隨分ある。皆いろ／＼の働きをして居る。殆ど支那の政治の實際は日本留學生がやつて居ると言つても宜いと思ふ。それは前清時代からさう云ふ風であつたのであります。歐米留學生と云ふものは無論数が少い。少いのみならず實際まだ其れ程に頭を擡げて居る人が少い。多少はありますが、大體の数が少いのですから隨て樞要の位地に居る人も少い。さうして支那に於て仕事をする具合を見ても、日本留學生の方が確に間に合ふ。歐米の留學生は間に合はない。と云ふのは、先刻申しました嚴復の例でも分りますけれども、向ふで學んだ知識を應用する段になると、いづれ支那文で言表はさなければなりませんから、そこで如何なる言葉を以て言表はすかと云ふことが困難である。如何に翻譯すべきかと云ふことに非常な困難を感じるのであります。一例を申しますと、前清時代に新聞紙條例を作ると云ふことで、日本留學生と歐米留學生とに其草案を作することを命じた。歐米留學生は苦心慘憺して一箇月ばかり掛つてもまだ出来ない。日本留學生の方は言葉が其通りであるから一週間足らずで出来てしまつた。さう云ふ譯で、一方は一箇月経つても出来ないから間に合はぬと云ふ點から云つても、勢

ひ彼等が優勢なる位地を占めて仕事をするに云ふことが不可能である。さう云ふ状態で、數の多少と實用の適否と云ふ點からして日本留學生の方が勢ひがある譯であります。

斯様な次第でありまして、知識の程度などは暫く問題外に致して、兎に角支那の各方面に仕事をして居る人は日本留學生であるのでございます。扱其等の既に支那へ歸つて仕事をして居る人々、又今日來て居りまする留學生、是れがどれ程日本を了解して歸るかと云ふ問題です。私から見ますると殆ど日本と云ふものを了解せずに歸つて行くと言つて宜からうと思ふ。先達も或會合の席で支那學生に申しましたが、どうも下宿屋の二階から觀た日本觀ではいかぬから、どうか眞の日本觀を得て歸つて貰ひたいと云ふことを注文しましたが、殆どさう云ふことがない。御承知の通り支那人同士でも省が異なつて居るとなかく一緒になりません。何も別に問題がなければそれは一緒になるかも知れませぬが、一つ問題があつて利害の關係になると一緒になりません。やはり省々で別れます。それは第一言葉の違ひが原因でありまして、例へば廣東人と福建人と一緒にならない。言葉が違ふてまるで外國人と話をするやうなものである。言葉を了解しなければ同情も起らない譯であります。言葉と云ふことが餘程原因を成して居りませう。其外支那人の間にはいろ／＼混雜したむづかしい事情があつて、亦其原因を助けて居ります。兎に角省々で固まつて居る。御承知の通り何省會館と云ふ看板を掲げて各省々々の會館と云ふものがある。支那人の留學生を悉く打つて一團と爲すと云ふ大きなものは、名はございますが實はない。さ

う云ふことは行はれ難い。さう云ふ状態でありますから、日本人と交際して親しくすると云ふことは一寸しさうもない。そこで大抵は下宿屋に居りまして、自分と同省の懇意な者と一緒に話でもして居る。其下宿屋の二階から日本を観ると云ふ有様であります。

そこで日本が非常に貧乏であると云ふことはよく言つて居ります。新聞に出ますことを皆事實として信じて居る。公使館あたりでも然うでございませう。随分新聞には間違つたことが出ますが、其間違つたことを其儘信ずる。又殊に支那人は疑が深いのです。嘗て斯う云ふことがございしました。北京の電話局に日本人の技師が居る。其日本人の居ると云ふことを常に猜疑の眼を有つて見て居る。或る時或る立派な責任ある地位に居る支那人が、北京から歸つて來て私に申しました。どうも困りますと云ふ。何かと問ふと、北京では途方もないことを言つて居る。外でもないが、北京の電話地下線がダブルになつて居つて一うは需用者に行つて居る、一つは全部日本公使館に行つて居る。そこで日本公使館では有ゆる電話を悉く聴くことが出来る。それは日本の技師が居るからあの技師がやつたのだと言つて居る。併しさう云ふことが出来るものではない。夜中にでもやればやれるかも知れぬが、何しろ一夜の中に地下線の埋没の出来るやうな距離ではないから、さう云ふことをする譯はない。然るに兎に角日本公使館では有ゆる電話を聴取ることが出来るやうになつて居ると言つて非常に支那人は怖れて居る。あの日本人の技師は早く放逐してしまはなければならぬと言つて居る。と云ふ話を聞いたことがあります。誠に一場の笑話

の様でございますが、支那人は大小となくさう云ふ常にさういふ疑を有つて居る。又やはり其當時でございましたが、支那では日本に對して非常な疑を抱いて居つた。と云ふのは、日本では今動員令が出て居つて、陸海軍の各砲兵工廠、造兵廠では盛に戎器を製造して居る。明日にも支那と戦争の出来るやうに準備をして居ると云ふので、其探偵に來た人は吳の造兵廠ではどの位拵へて居るとか、砲兵工廠ではどの位拵へて居ると云ふことを頻りに探索した。さう云ふ風に非常な疑を有つて居つた。

斯様な次第でありまして、是れは何處の國に對しても然うでありませうが、支那人は始終疑を有つて居るのであります。個人間でも随分其れがございます。そこで下宿屋の二階から日本を觀て居るにしても無論さう云ふ猜疑の眼を以て觀て居る譯でございます。新聞などは随分途方もないことが出て居りますが、それを直に事實であると信じて公使からも留學生からも傳はつて參りますから、小さなことが非常に大きな問題になることもあらうと思ひます。そこで、どうかも少し下宿屋の二階を離れて、日本の社會に立入つて日本を本當に觀察して貰ひたい。と云ふことを私は申したのであります。殊に日本の國民性と云ふものは全く了解して居らないから、いろ／＼間違ひが起る次第であります。兎に角支那と日本とは表面では同種同文とか唇齒輔車とか云つて居りますが、なか／＼さう云ふ空お世辭で行くものでない。支那人も日本を了解し、日本人も支那を了解し、双方で了解して交はつて行かなければならぬ。胸襟を開くことが必要だと云つてもなか／＼胸襟を開いて呉れない。肝膽相照らすと云ふ語がある

が、なか／＼外國人とは肝膽相照らさない。もう少し兩方で互に了解し研究しなければ到底日支兩國の間に本當の親善と云ふことは期し得られない。もう少し支那人がさう云ふ氣になつて呉れなければ困るから、留學生をもう少し何うかしたいと云ふことを私は考へて居りますが、なか／＼容易に手が付けられぬのであります。先刻申した様に或一種の報酬を豫期してやると云ふのでなじに、眞に親切に導いてやらうとしても一寸手が付けにくいのであります。手を付けて眞に效果あらしめると云ふことは困難であらうと思ひます。迂濶に手も付けられませぬが、餘程是れは日本として考へなければならぬことであらうと思ふのであります。從來澤山の留學生が來て居るのであります。第一日本の歴史とか文學と云ふものを研究した人はない。随分日本の俗語などを謠ふ人はあります。支那人は耳の記憶があるのですちよつと寄席に二三遍も行けば直ぐに覺へて謠ふ者がある。北京に歸つて居る留學生の中にも餘程日本通の者が居るが、扱日本の歴史を知らない。それなら日本の文學を知つて居るか。文學も知らない。日本の建國の精神、さう云ふことも無論研究して居らない。又恐らくさう云ふことの話を書く機會もないのでありませうが、兎に角少しも知つて居らない。唯、下宿屋の二階から觀た日本觀と云ふもので批評して居る。それが向ふへ歸つて立派な役人の位地に立つと云ふことでありますれば日本としては随分面白い譯であります。

御承知の通り支那からは随分いろ／＼な視察の人が來ますが、一番困るのは留學生に接近すること

す。是れが一番困る。來る人は極く淡泊な頭腦で來る。それに對して日本は貧乏であるとか、國の有様が面白くないとか、總て悪いことを言つて聞かせる。善いことは言つて聞かせない。近頃随分悪いことを言つて居る。さう云ふことを來たばかりの人に言つて聞かせてしまふので、イヤそんな國かと云ふ考で視るから碌な視察は出來ない。斯う云ふことは何とか吾々日本人として考慮しなければならぬ點であらうと思ひます。兎に角餘程國民性の上に於て研究を要することではあるまいかと存じます。互に打解けて日本人と支那人と肝膽相照らすと云ふまでに眞に握手することが出来るか何うか。それ程までに國民性なり思想なりが似て居るかと云ふことは餘程研究を要することであらうと存じます。私も可なり長く支那に居つていろ／＼の人と交つたのでありますが、或處まで行くとそれから先きは一つ何か或ものがあるが如く感ぜられる。それを破つてしまへば大變宜いかな／＼破れない。それで眞に肝膽相照らすと云ふことは、口では言ひましても實際に於てはむづかしいと感ずるのであります。何か利害の關係で結付くならば別でありますが、然うでない以上は非常にむづかしいと思ひます。

そこで私も實は斯う云ふことを考へたのであります。國と國との關係が單に政府と政府との關係だけでなしに、もう少し國民と國民と接近すると云ふことが必要であらうと。それには第一支那人と日本人が盛に通婚をしたら何うかと云ふことを考へたのであります。是れは近衛公爵もさう云ふことを考へられて居つたといふことを後に知りました。支那に行きました初にはさう云ふことを私は考へましたが、

今日では斷然それに反對の意見を有つて居るのです、到底ダメだと信じて居ります。今では若し支那人と結婚をしようといふ日本の婦人がありましたら私は是非之を止めやうといふ考を有つて居る位であります。と云ふのは、從來支那人が日本婦人と結婚したのは實際其數は少うございますが、大抵は婦人は棄てられて居る。下等の者は別であります、兎に角留學して支那へ歸つて相當の地位を有つて居る人で日本の婦人と結婚したのは少いが、其大多數は皆婦人を棄て、居る。つまり留學中に日本に於て結婚する。決して野合でも何でも無い、立派に結婚して、中には教會に行つて神の前で誓つて結婚した者もある。それが支那に歸る時になると細君を置いて行つてしまふ。支那人は皆其遣方が同じであるから面白い。すべて同じ筆法にやる。獨り日本に於てのみではない様です。先達上海の英字新聞に次の話が載つて居つた、一日會審裁判衙門に九歳ばかりになる少女が泣きの涙で出て來て、裁判官に向ひまして、實は今日母が出るのでありますが、母は外に出る着物がございませぬので私が代りに參りました。私の父は支那人であります、母は亞米利加人であります。兩親は亞米利加で結婚して數年間住まつて居つたが、近頃こちらへ參りました。參つた所が急に父は私共母子を棄て、何處かへ行つてしまつて行方が分からぬ。別に財産がある譯でもなく、全く父の收入で暮らして居つたのであるから、私共は今日食ふものもない。着物などを賣拂つて日を送つて來たが今では賣る着物もない。どうか私共を保護して下さい。と言つて泣きながら訴へたと云ふことが書いてあつた。それに附けて記者の曰く。支那人と亞米利加人

と結婚した結果は皆此通りである。然るに亞米利加人はそれを知らないで矢張り支那人と結婚する者がある。是れは大に亞米利加人に向つて注意を加へて、支那人と結婚すべからずと云ふことを教へなければならぬと云ふことが書いてありました。其表題は「亞細亞人との結婚」と云ふ大きな題であつたから日本人も包含されて居るかと思つたら然うではなかつた、兎に角さう云ふ譯で大抵は置去りです。中には旅費を友人が才覺しあとから追蒐けて行かしたのがあるが、行つて見ればそれで矢張り夫婦になつて居る。別に追返すのでもなければ、虐待して居られない様にするのでもない。兎に角置いて行つてしまふ中には再び日本に來て一緒に居つて、歸る時分に又置いて行つてしまふと云ふのがある。大分御念の入つた人がある。斯う云ふ有様でありますと、日本人と支那人の通婚と云ふことは餘程考へものであらうと私は思ふ。初は其れが宜からうと考へたが今では寧ろ反對の考を有つて居ります。支那人に取つては餘り不思議なことではありますまい。北京あたりで見えて居りますと、細君を本籍に置いて自分は北京に妾を置いてある。けれども別に隠しもしない。本妻だか妾だか分らないのがある。本妻と同じ様な扱ひで社會に立つて居る。場合に依つては某夫人で通つて居る。日本人などは大變氣にするが支那人は平氣でやつて居る。さう云ふ譯でありますから、日本に來た時の細君は其れは日本に置いて、向ふに歸つて又細君を貰ふと云ふことは別に不思議はないのであります。どうもさう云ふことでは日本人と支那人の通婚と云ふことは餘り獎勵したくない。

然らば其外に何か支那人と日本人と結付く方法はないかと云ふと、是れは利害の關係で結付くより外ないと思ふ。支那人は商業道德が發達して居ると云ふことは皆人が申します。成程それは旨く行つて居る様であります。例へば錢屋(昔の支那流の銀行)と云ふのは皆山西省の人と極まつて居る。水を汲んで賣るのが山東省。本屋が山東省。硝子屋が廣東省。藥屋が雲内、貴州二省と云ふやうに、大抵省によつて業が極まつて居る。隨て商賣上互に連絡が付いて居るから悪いことが出來ない。何か悪いことをするとか、或は雇人ならば主人の金をくすねると云ふやうなことをすると、もう其人間は同じ商賣では到底身を立て様がない。違つた商賣に轉じた所が矢張り分る。さう云ふ制裁からして畢竟悪いことをしないのであらうと思ふ。何も非常に道德心が高いのではない。悪いことをしては自分の身が立たない様になつて居るから悪いことをしないのであらうと思ひます。それから支那で甚しいのは、新たに出來る會社が總て失敗に歸すると云ふことです。つまり舊習慣に依らないものは總て失敗する——總てと言つては極端であるが、多く失敗であります。支那人の作る小説などを見ると澤山其れが出て來ます。例へば或會社を上海に拵へる。何も仕事をしない内に株金はすつかりなくなつてしまふ。株主は馬鹿を見てしまふ。鐵道問題でも然うです。四川の鐵道などは非常にやかましかつたが、隨分鐵道の爲めに澤山の金を集めて、而も普通の募集と違ひ一種の税金のやうにして取立てたのです。是非必要と云ふので義務的に負擔させて集めて何百萬と云ふ株金が出来たけれども、鐵道を一哩も敷かない内に其株金はなくなつて

しまつた。さう云ふ有様でございます。是れは舊習慣に依らぬからです。株金を皆使つて潰してしまつた者も別に罰せられる譯でもない。人の金で贅澤した丈でお仕舞ひになる、株主は金を損した丈でお仕舞ひになつて了ふ。商法で取締るとか何とか云つて居りますけれどもなか／＼容易に行きますまい。だから會社を立てるとは危い。成程中には好く行つて居るのも無論ありますが、多くはそんな状態です。或は建物が出来上がつて、中に機械を据へた切りでお仕舞ひになる。機械は一つも運轉しないで皆一種の固定財産になつてしまふ。之を見ますと、何も商業道德が完全に發達して居ると言つて威張る譯に行かない。つまり從來の習慣組織と云ふものが人をして悪いことを爲し得ざらしたのであらうと思ふ。

又師弟の關係と云ふものい支那ではやかましい。是れも昔の學者などが云ひます様に、眞に所謂道を授けて貰つたと云ふので師を敬し、師も亦自分の子の様にして率ゐて行くと云ふのであれば立派であるが、よく觀ると然うでない。師と云つても、學校で本を教へたと云ふ先生は其れ程偉いものとされない師弟と云つて切つても切れない縁の付くのは試験官と試験及筆者との關係で、是れがやかましい。近頃大總統が文官試験などに於て從來の様な師弟といふ名目を付けてはならぬと云ふことを命令して居る。試験官と受験者はいつでも門生夫子と云ふ名を付ける、其爲めに一種の朋黨を作る、非常に悪いことであるから將來文官試験に於ては一切さう云ふ名目を廢すと云ふことを命令して居る。子供の時分に蒙

を啓いて呉れた先生と其弟子との間の關係はそんなに深くない、一生涯續くのは試験官と受験者の關係である。例へば試験官たる先生が大臣になつた時には、弟子は其大臣の御蔭で官が進む。或は地方官になつて赴任すれば其大臣が一本の手紙を書いて持たしてやる。それに由つて總督巡撫が特別に保護をする、多少の過失があつても大目に見る、と云ふ風にして總て率ゐて行く、位地を與へてやる。而して其れに對して弟子の方では物質的にお禮をして居る。支那では節句が五遍になつて居る。夏は氷敬と云つて金を持つて行くし、冬は炭敬と云つて金を持つて行く。何處に居つても先生に金を上げる。先生が五十の祝とか六十の祝に當れば皆集まつて盛な式をする。或は先生の家不幸があれば行つて世話をする。金も差上げる、と云ふ様に、物質的に盡す。物質的以外にも盡すが、なか／＼物質的に盡す所が多い。さう云ふ關係で結付いて居る。そこで此關係は非常に深いものであるから一種の朋黨が出来る。さうして黨派の様な關係が付いて大きな渦巻と云ふものが澤山ある様な譯ですから人間の關係と云ふものが非常に混雜する。

そんな状態で、胸襟を開いて眞に手を握ると云ふことがなか／＼むづかしい。そこで結局支那人と日本人とは利害の關係で結付くより外に仕方がないと思ふのであります。是れもなか／＼面倒な問題でございます。日本に金が十分なければならぬし、又日本人と支那人と一緒に仕事をすると云ふことに就ては随分反對もありますからむづかしいでございます。併し是れもいろ／＼様子が變はつて來るので

ありますから又何う變はるか知れませぬが、兎に角さう云ふ關係で結付くことが一番鞏固ではないかと云ふ風に考へるのであります。尙其外にもいろ／＼方法はありませう。外國では頻りに學校を支那に立てると云ふことをやつて居りますが、そんなことは一寸日本には出来もしますまい。又日本には留學生が澤山來ますから、強て有りもしない金を持つて行つて學校を立てる必要もない。又ケチなものを立てる位なら寧ろ立てない方が宜い。さう云ふ譯で、つまり利害の關係を以て結付くことが一番宜からうと思ふのであります。前にも申しました様に既に言葉が行つて居るから、其言葉の跡を追ふてさう云ふ方面で進んで行く様にならなければならぬかと思ひます。

それに致しましても、日本人がもう少し支那を研究することが必要ではないかと思ふのであります。支那人と結付くには矢張り支那人と一緒にしなければならぬが、どうも支那人の風俗とか人情とか心持と云ふものを日本人が能く知らない。何もこちらは悪意はないのであるけれども、することが支那人の感情を害すと云ふことが随分ある。もう少し支那の人情風俗を研究して見て、其れに反かないやうに感情を害さないやうに進んで行かなければならぬと思ひます。其事は支那へ行つて居る人々は殊に注意しなければならぬと思ふ。商賣などをして居る人は随分酷いこともする様です。日本人は支那人を非常に馬鹿にして居るが大變な間違ひであると思ふ。北京などに行つても、チャンコロとかチャン／＼とか言ふ。あれは非常な間違ひである。

一體日本人は、支那に行つて、日本國民としての威嚴を保たなければならぬと云ふ處から餘程おかし
いことをやつて居る。私が北京に居りました時分に、日本人の豆腐屋が出来た。支那の普通の豆腐は少
し臭ひがするので日本人は厭がる。臭ひのしない豆腐もあるが、それを買ふのが一寸面倒だと云ふ處か
ら、日本人が豆腐屋を始めた。北京では其頃兵隊を除けば六七百人しか日本人が居らない。其日本人だ
けを相手にして豆腐を賣つても生活が出来るものでなからうと思ふが、豆腐屋が出来た。そこで何う云
ふ風にして賣つて歩くかと云ふと實におかしいのです。これは日本人としての威嚴を保たうと云ふこと
から來たらしいが、自分は洋服を着て巻煙草などを喫ひながら、支那人を雇つて豆腐を擔がせて賣つて
歩く。それから洗濯屋が出来た。やはり其筆法で、自分は少しもしないで、支那人を雇つて其れに洗濯
をさせたり、擔がせて御用を聞いて歩く。是れは變なことをすると日本人の威嚴を損する、國辱になる
と云ふのです。國の耻辱を思ふのは結構であります。然らば日本人の威嚴を保つ爲めに何も悪いこと
をしないかと云ふと、地方では大變悪いことをして居る。博奕などをする。支那では博奕は随分盛にや
る。紳士でも何でも公々然とやる。けれども賭場を開くと云ふことは出来ない。北京あたりでは賭場を
嚴禁してある。皇族の家來に悪いのがあつて賭場を開いて居りますが、兎に角官憲の踏込み得ざる所で
なければ賭場を開けない。それには外國人と云ふものが都合が好いから自分で賭場を開く。日本人はか
りではない、西洋人もやりますけれども、自分で豆腐を擔いで國の耻になると云つて擔がない國民が

一方に於ては賭場を自分で開く。そんなことで前後矛盾したことをやつて居る。其外或は支那人の非常に嫌ふことをやつたり、押賣などをやつたりして、ひどく支那人を馬鹿にして掛かつて居る。是れは私には非常な間違ひであると思ふ。もう少し支那人の人情に反かないやうに、支那人に嫌はれないやうに仕事をして行くことが必要である。さうして利害關係を以て結付くと云ふことが支那と日本との關係を親密ならしむる所ではないかと思ふのであります。

以上申上げましたやうな譯で、日本の文化と云ふものが支那に影響を及ぼして居ると云ふことはホンの皮相のことであつて、もう少し深からしめなければなるまいと思ひますが、之を深からしめるには一種の利害關係で結付くより外にないと思ひます。大きな題で甚だ詰らぬをとお話致しました。(拍手起る)

